

平成22年度 府立泉北学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

- ① 文武両道をめざす高校（高い志をもって、他人を思う心を育み、幅広い教養を身に付けると共に、特別活動や部活動をとおして逞しい実行力、実践力を養う）
- ② キャリアガイダンスの充実した進学校（多様な進路に関する情報を提供することによって明確な進路目標をもたせ、その目標へ向けての学習活動によって進路希望の実現へと導く）
- ③ 国際文化科と総合科学科という特色ある学科を基本とし進化を続ける高校（専門学科の利点を生かし、時代の要請に応じた新しい取り組みを進めていく）

2 本年度の教育目標

- 泉北高校が目指す学校づくりを進めるため、具体的な行動目標として次の観点から取り組む。
- ・国際・科学高校として5年が経過した。多様な取り組みについて客観的評価を含めてその成果の把握、分析を行い、10年目を見通した改善方向を具体化し進める。
 - ・3年間の学習の成果とも言える一人ひとりの生徒の進路実現について、学校としての取り組みを明確にし進める。
 - ・個別に対応が必要な生徒への指導について、組織的な体制を整備する。
 - ・学校の特色や活動について幅広く情報発信すると共に、地域との連携を進め、「地域のセンター」としての機能を果たす。
 - ・各教育活動において、一人ひとりの生徒を大切にすると共に生徒全体の向上を目指す。
 - ・スーパーサイエンスハイスクール事業について次年度以降を見通したまとめを行う。
 - ・耐震補強工事の実施に伴う教育活動への影響が最小限となるように調整、工夫を行う。

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成22年 5月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教科で、年次指導計画の作成、教材研究、教科指導法、施設・備品の拡充・活用等について検討し、専門的教養を深めるための研修会を継続的に実施する。 2. 教科研究会、講習会、および他校の研究授業等には、可能な限り参加し、参加者には帰校後その伝達・報告を行い、共同研究の資とする。 3. 成績会議を毎学期末に開き、教科指導の反省ならびに指導法を検討する。 	<p><研究授業等の実施> 大阪府教育センターの指導主事を招き、英語と理科で研究授業を実施した。また、初任者についても、校内研修の一環として研究授業を行った。保護者対象の授業公開は3日、地域の中学校教員等も参加できるスピーチコンテスト・課題研究発表会等も5日実施した。保護者の参加は増加している。</p> <p><研究授業等の参加> SSH研究指定校及び国際関係科設置校の研究授業等に参加し、本校の理数教育の参考とするなど、各教科で他校の授業見学や、教科研究会に出かけている。</p> <p><成績会議> 年3回全体での成績会議を実施し、生徒の状況について共通理解を図っているが、それに先立ち、各教科・各学年による会議により、情報交換を行っている。これにより、個別の指導が必要な生徒が確認されることになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケートの内容改善 22年度の実績を踏まえ、質問項目の改善を図る。 ○研究授業の実施数増加（6回） 初任者、指導教諭等の研究授業実施 ○生徒の進路実現のため、進路指導体制の充実 進路HRの時期等、工夫を行う。 ○「使える英語プロジェクト」を活用した英語教育の充実。(TOEIC対策等) 1,2年生の自由選択科目として6限目に「Global English Training」を設置
(2) 生徒指導等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個別指導計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭・補導機関との連絡 (2) 生徒の実態把握と平素の指導 (3) 問題行動の早期発見とカウンセリング 2. 集団指導計画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 規律ある生活の指導 (2) 問題行動を未然に防止するための事前指導 (3) 指導上の問題点および諸規則の検討 3. 交通安全・薬物乱用防止教育 警察等外部講師による講習を実施する。 	<p><個別の指導について> 年3回の成績会議を通じ、各学年で個別の指導が必要な生徒について情報を共有した。特に心身に問題を抱える生徒に対しては、養護教諭・教育相談係等が校医やスーパーバイザーと連携して対応した。また、生徒健康委員会を開き、進級や卒業に関し配慮を行った。これらの対応により、当該生徒や保護者に本校の丁寧な指導について理解が深まったと思われる。</p> <p><集団指導について> 頭髪・服装・遅刻指導を教員全員で行っている。頭髪・服装には特に大きな乱れはない。遅刻の多い生徒に対しては、学年を中心にねばり強く指導を行っている。問題行動については、単者登校等で停学・校長訓告の生徒が出たが、指導の結果、十分な反省が引き出せた。</p> <p><交通安全・薬物乱用防止教育> 各学期にそれぞれ3日間登校指導を行い、交通マナーの指導を行った。自転車通学については、生徒が事故にあったり、信号停車待ちの車との接触で苦情が学校へ来る場合があるので、指導に力を入れている。 薬物乱用防止教室は、1年生対象に1学期終業式後に実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画の立案 生徒の心身の状況を、養護教諭、相談係、担任、学年主任等が情報共有し、必要に応じ生徒健康委員会を開く。さらに、状況に応じ、特別に配慮の必要な生徒に対する個別の指導計画を立てる。 ○自転車通学に伴う安全指導 交通安全講習、及び登校指導（各学期3日間）による継続的な指導を行う。 ○薬物乱用防止教室の実施 1学期に1年生対象に薬物乱用防止教室を実施する。
(3) 学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営組織の確立 校内各委員会を整理し、一部を運営委員会で代替できるようにするなど組織の見直しを行う。 2. 個人情報の保護 校内イントラまた教務スタンドアロンパソコンのみで成績処理を行うなど、個人情報を保護する。 3. 施設・設備の管理、環境整備と清掃美化の推進、防災対策、教員の健康管理 4. 教職員の研修 人権研修を年2回実施する。研究授業の実施。 	<p><経営組織の確立> 校長・教頭・首席の連絡会を随時開き、学校運営の円滑化を図った。 科長・学年主任会議を定期的に行い、学習指導や特別活動が細かなところまでスムーズに進むよう、調整を図った。 泉北高校課題検討委員会を年度末に開き、次年度へ向け家庭学習の指導方法について検討した。</p> <p><個人情報の保護> 情報管理の徹底について職員に指導を行った。</p> <p><施設・設備の管理等> 学期に1回安全点検を実施。 日常の清掃指導はしっかりと行っているため、校舎内は清潔な状態である。</p> <p><教職員の研修> 4月に新転任者オリエンテーションを実施。職員人権研修を年2回実施。研究授業については上述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者への連絡体制の充実 保護者に緊急メーリングリストの加入を呼びかける。 ○広報用パンフレットのリニューアル 若手教員原案による学校案内パンフレットのリニューアルを行う。 ○若い教員向け研修 研究授業等 OJT による指導力の向上を図る。 ○学校教育自己診断の結果分析 3年間実施した結果の集計から分析を行い、よりよい指導方法を具体的に考えていく。
頁追加	4		

4 学校教育自己診断における結果と分析 [平成23年11月 実施分]

<p>*実施対象（<u>教職員</u> ・ <u>生徒</u> ・ <u>保護者</u> ・ その他）</p> <p><u>生徒</u> 生徒用自己診断の質問項目「学校へ行くのが楽しい」に肯定的回答をする生徒が77.5%と、昨年度とほぼ同じ数値になった。それに反して、昨年度は質問項目「学校に行くのがしんどい」に51.0%の生徒が肯定的回答をしたので、これをどう分析したものかと議論になった。この経緯を受けて、22年度はこの項目をさらに詳しく、「学校へ行くのが体力的にしんどい」、「勉強がついていけず苦痛だ」、「クラスやクラブ等の学校内の人間関係がしんどい」に分けて質問した。それぞれの肯定的回答は順に、58.0%、49.7%、30.6%だった。ここから、通学が体力的にしんどい生徒が6割弱いることに加え、生徒の2人に1人が何らかの科目で勉強についていけない状況があることがわかった。別に行った授業アンケートでは、どの教科においても予習・復習にかかる時間が不足していると生徒自身が感じていることがわかった。これらを受けて、来年度早々、家庭学習の増加を促す方策を考え、実施していく方向で動くことにした。教員の授業力向上を目指すことはもちろんのことである。</p> <p><u>保護者</u> 「学校の教育活動に満足している。」3年連続約8割</p> <p>※集計結果にもとづく分析は今後行う。</p>

5 学校協議会における提言内容

<p>*実施日 第1回（6/21）第2回（2/4）</p> <p>*委員構成 学識経験者、近隣中学校校長、近隣小学校校長、PTA代表、後援会代表、同窓会代表、府立高校長経験者</p> <p>*内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○SSH事業指定延長申請を実施する。 ○特別教室にエアコンを設置してほしい。 ○新カリキュラムは生徒の進路実現に対応したものを考えてほしい。 ○65分授業のあり方について検討する必要がある。 ○学校教育自己診断、授業アンケートを受け、生徒の家庭学習時間の増加を図る必要がある。
